

前書き

日本臨床神経生理学会（当時、日本脳波・筋電図学会）では1979年に「脳波・筋電図用語集」を発行し1991年に改訂を行ったが、以来20年以上経過したものの、その後は用語集の改定作業は行われてこなかった。この間に本学会は名称も現在の日本臨床神経生理学会と変更され、学会認定医・認定技術師制度も発足し認定試験も行われるようになった。また、臨床神経生理学に関連する領域も脳磁図、脳磁気・深部刺激、脳画像など大いに広がってきた。こうした変化に対応して、臨床神経生理学の領域の学術用語について推奨される用語の使用ガイドラインを学会として示す必要があるという認識に基づき、1991年版を改定して新たな臨床神経生理学用語集を発行することを具体的目標として臨床神経生理学用語集委員会を発足させることが2012年7月の本学会理事会にて決定され、同年11月の社員総会で承認された。用語集委員会委員長は丹羽真一監事（当時）が、担当理事は馬場正之神経筋電気診断技術向上委員長（当時）、加我牧子理事（当時）が務めることとなった。そして用語集委員会委員を原則として会員の中から下記の通りに委嘱して、脳波(EEG)、筋電図(EMG)、誘発電位(EP)、脳磁図(MEG)、画像(Neuroimaging)、磁気刺激(TMS)、医用電子(ME)、基礎生理学(Basic Neurophysiology)、睡眠(Sleep)の領域の専門家による班を構成して頂いた。なお、下記委員の中で Reviewer と記されている方は、各分野の用語集作成 Core 委員のまとめを review して必要な修正を行う委員として委嘱した。下記委員の肩書は委員会発足当時の所属となっている。

Core 委員

Reviewer 委員

脳波(EEG)

小林 勝弘 (岡山大学病院 小児神経科)	松浦 雅人 (東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科生命機能情報解析学分野)
池田 昭夫 (京都大学大学院医学研究科 てんかん・運動異常生理学講座)	
福田 正人 (群馬大学大学院医学系研究科 神経精神医学)	大塚 頌子 (岡山大学 医学部小児神経科)

筋電図(EM)

今井 富祐 (札幌医科大学 神経内科)	幸原 伸夫 (神戸市立医療センター中央市民病院 神経内科)
根津 敦夫 (横浜療育医療センター 神経小児科・神経内科)	馬場 正之 (青森県立中央病院 神経内科)
国分 則人 (獨協医科大学 医学部神経内科)	

誘発電位(EP)

中込 和幸 (国立精神・神経センター 精神保健研究所)*	黒岩 義之 (帝京大学 医学部神経内科学 同附属溝口病院 脳卒中センター)
相原 正男 (山梨大学医学部 健康生活支援看護学講座)	
尾崎 勇 (青森県立保健大学 健康科学部理学療法学科)	長田 乾 (秋田県立脳血管研究センター 神経内科)
	加我 牧子 (国立精神・神経センター 精神保険研究所)

脳磁図(MEG)

湯本 真人 (東京大学大学院医学系研究科 内科学専攻病態診断医学講座) 橋本 勲 (金沢工業大学)
久保田雅也 (国立成育医療研究センター 神経内科) 柿木 隆介 (自然科学研究機構 生理学研究所 統合生理研究
中里 信和 (東北大学大学院医学系研究科 てんかん学分野) 系)

医用電子(ME)

川名 ふさ江 (虎の門病院検査科) 石山 陽事 (国家公務員共済虎の門病院 臨床生理検査部)
高橋 修 (市川市リハビリテーション病院 臨床検査科) 野沢 胤美 (虎の門病院)
酒田 あゆみ (九州大学病院 検査部)

画像(Neuroimaging)

高梨 潤一 (亀田メディカルセンター 小児科) 松田 博史 (国立精神・神経センター 精神保健研究所)
高橋 英彦 (京都大学附属病院 精神科) 福山 秀直 (京都大学大学院医学研究科附属 脳機能総合研
渡辺 英寿 (自治医科大学 脳神経外科) 究センター)

磁気刺激(TMS)

鬼頭 伸輔 (杏林大学 医学部精神神経科学教室) 宇川 義一 (福島県立医科大学 神経内科)
花島 律子 (東京大学医学部 神経内科)
魚住 武則 (産業医科大学若松病院 神経内科)

基礎生理学(Basic Neurophysiology)

橋本 修治 (天理よろづ相談所病院白川分院) 長峯 隆 (札幌医科大学 医学部神経科学講座)

睡眠(Sleep)

中島 亨 (杏林大学 医学部精神神経科) **

* 2014年11月で退任、 ** 2014年11月から就任

今回改訂作業を行い発行する新たな用語集の目的と概要は次のようである。 すなわち、

- 1) 1991年の用語集の改訂という位置づけとする。
- 2) 領域としては、脳波(EEG)、筋電図(EMG)、誘発電位(EP)、脳磁図(MEG)、画像(MRI, PET, SPECT, NIRS などの Neuroimaging))、医用電子(ME)、基礎生理学(Basic Neurophysiology)、睡眠(Sleep)とする。
- 3) 推奨される用語とその使用法を定めることを目的とし、用語の解説を目的にはしない。
- 4) 論文作成、学会発表の際の用語使用のガイドライン、認定医・認定技術師の試験の際の用語使用のガイドラインとなるようにする。

以上の確認に基づき、各班で91年版の用語集から、引き続き採用する用語を抽出し、新たに追加すべき用語を出していただき、それを委員長、副委員長の3名で集約し重なりを調整して、次の判例で示すような基準に基づいて収載すべき用語の取捨選択を行った。91年版ではあいうえお順で用語を示すセクションと、ABC順で用語を示すセクションとの2部構成になっているので、今回の用語

集もそれにならって同様の2部構成とした。

本用語集は印刷物としては作成せず、本学会ホームページに掲載して自由にダウンロードできる形で提供することとした。ただ、本学会に無断で用語集を書き換えて流布するような行為は厳に慎んでいただきたい。なお、本用語集は2015年7月12日の本学会理事会で承認を得て確定された。

本用語集が臨床神経生理学領域の用語使用のガイドラインとして、論文作成時の手引きとしても活用されることを切に願うものである。本用語集に万一不備がある時は本学会事務局に御連絡を頂ければ幸いである。学問の発展はとみに足早になっているので、本用語集が時代と学問の発展に応じてさらに改訂されてゆくことを期待して前書きとしたい。

日本臨床神経生理学会
用語集委員会
委員長 丹羽真一
副委員長 馬場正之、加我牧子

凡 例

1. 当用語集の編纂にあたっては下記の用語集を参照し、これらに収録されている用語および和文用語に対してはそれらを尊重する方向で検討した。ただし、必ずしもすべてそれに従ったものではない。

米国筋電図・電気診断学会編 AANEM glossary of terms in neuromuscular and electrodiagnostic medicine、2015年

国際脳波・臨床神経生理学会連合(IFCN)編 A glossary of terms most commonly used by clinical electroencephalographers、1999年

日本神経学会・用語集委員会編 神経学用語集 改訂第3版 文光堂、2008年

日本精神神経学会・精神科用語検討委員会編 精神神経学用語集 改訂第6版、2008年

日本小児神経学会用語委員会編 小児神経学用語集 改訂第3版 診断と治療社、2010年

日本てんかん学会編 日本てんかん学会用語事典、1995年

日本睡眠学会編 日本睡眠学会用語集、2009年

2. 91年版には一般用語と解される用語も含まれていたが、本改訂版では一般用語と考えられる用語は含まない方針とした。

(例) location, quantity は削除。

(例) independent は削除。

3. 一つの欧文用語に対応する和文用語が複数となっている場合は、並列した。

(例) 型 pattern
波形 pattern
パターン pattern

また、一つの和文用語に対応する欧文用語が複数となっている場合も、並列した。

(例) 反応 reaction
反応 response
(例) 棘徐波複合 spike-and-slow-wave complex
棘徐波複合 spike-and-wave complex
棘徐波複合 spike-and-wave discharge
棘徐波複合 spike-wave discharge

4. 用いられるようになって日が浅い英語用語で、対応する日本語用語が定まっていない用語については、その用語に関連する専門領域の委員に意見を伺い、多数意見を採用して収載あるいは不採択とした。

(例) 二種刺激時間間隔 stimulus onset asynchrony [SOA] は収載。
(例) concomitant blocking は不採択。

5. 91年版には含まれているが、現在は頻用されない用語は削除した。

(例) galvanic skin reflex 電流性皮膚反射 は削除。
(例) brief small abundant potential [BSAP] は削除。

6. 使用しない方が好ましい用語は、当用語集には含めなかった。

(例) auditory evoked potential [AEP] 聴覚誘発電位 は採択。
auditory evoked response (AER) 聴覚誘発応答 は不採択。
(例) 棘・穹複合 spike-and-dome complex (和一欧の部) は不採択。
棘・穹複合 spike-and-dome complex も不採択。

7. 和文用語における()内の文字は、これを挿入ないし付加して用いられることを意味する。

(例) burst 群発(波)
「群発」のみでもよく、「群発波」としても用いる。

(例) (波)型
「干渉型」、「基礎波型」のごとく用いる。

(例) 逆行(性)
逆行刺激、逆行性伝導

(例) 単線維(用)針電極
「1本の細い針電極」と誤られるおそれがある時には「単線維用針電極」を用いる。

8. 欧文および和文用語における略字を[]内に示した。

- (例) 随意収縮時運動閾値 active motor threshold [AMT]
挿入型刺激発生装置 implanted pulse generator [IPG]

9. 形容詞の「性」「的」「状」「の」などはできるだけ省略した。

- (例) antidromic stimulus 逆行刺激
ただし、熟語としてあいまいな表現になる場合はこの限りでない。

- (例) back averaging 逆行性加算平均法
periodic burst 周期性群発(波)
slow spike-and-wave complex 緩徐性棘(・)徐波複合

なお、和文用語において、形容詞単独の用語には(性)をつけたが、それを冠する熟語にあっては、上記のごとく「性」を略し、また形容詞のままとして用いる場合は「性」(あるいは「の」「な」など)をつける意である。

- (例) bipolar 双極(性)
bipolar montage 双極モンタージュ

10. 末尾に-er, -or, -y, -ia のつく欧文用語をカタカナ書きする場合、原則として末尾に「一」をつけなかった。

- (例) isolator アイソレータ
topography トポグラフィ

ただし、人名や臨床上の病態名・病名などでは慣用に従った。

- (例) Berger rhythm ベルガー律動:ベルガーリズム
Jolly test ジョリー試験
myokymia ミオキミー
global field power グローバルフィールドパワー

11. 語幹は同じだが語尾が -gram、-graph、-graphy と変化する英語用語の日本語については、-gram は一図、-graph は一計、-graphy は一学または一検査法に統一した。

12. ……神経刺激の場合のように、……に相当する個々の神経が複数ある場合には、個々の神経ごとに収載することはしないこととした。

13. Discharge、rhythm、spike など臨床神経生理学の領域で極めて使用頻度の高い用語で、英語用語と日本語用語の間で複数の対応が日常的に用いられている場合、用いられている複数の対応をそのまま収載

した。

(例)	cycle	サイクル、	周期
	pattern	パターン、	波形、 波型、 図形
	rhythm	律動、	リズム